

求められる行政という 実感と共感を目指して

総務省行政管理局管理官
(政府情報システム基盤、行政情報システム総括担当)

黒田 忠司 KURODA Tadashi

平成 7年 4月 総務庁採用
平成 13年 7月 総務省行政評価局総務課総括係長
平成 14年 7月 同 行政評価局評価監視調査官
平成 16年 7月 在ベルギー日本国大使館二等書記官
平成 17年 4月 同 一等書記官
平成 19年 8月 総務省行政管理局副管理官
平成 22年 7月 内閣府公益認定等委員会事務局総務課課長補佐(総括担当)
平成 24年 8月 総務省人事・恩給局公務員高齢対策課企画官
平成 24年 10月 総務大臣秘書官事務取扱
平成 24年 12月 総務省人事・恩給局企画官
平成 25年 6月 同 人事・恩給局公務員高齢対策課企画官
平成 26年 5月 同 行政評価局調査官
平成 26年 7月 船橋市副市長
平成 28年 7月 総務省行政管理局管理官(独立行政法人評価総括担当)
平成 29年 7月 現職



社会の変化と求められる行政の姿

少子高齢社会となり、人口が減り、経済規模が縮小する一方、価値観が多様化し、行政に求められることは複雑化しています。このような状況の下、これまでは大きな政府から小さな政府といった考え方にに基づき行政を見直してきました。このため、行政改革といえば、定員削減、民営化のような規模縮小を行い、その結果自ずと業務見直しが行われるという考え方で取り組んできました。しかし、現実には、従来の業務を減らし、その質を落とすという判断はできなかったと考えています。こういった中で、最近取り上げられている霞が関の仕事の課題も顕在化し、改革の動きが出てきています(注1)。

現在は、このような課題に対応するため、情報通信技術(ICT)を活用して職員が行っていた業務を代替し、最小限のコストで最大限のニーズに応える政府モデルの実現可能性が見えてきたタイミングにあります。

(注1)「厚生労働省を変えるために、すべての職員で実現させること。」厚生労働省改革若手チーム緊急提言(https://www.mhlw.go.jp/content/11600000/000540524.pdf)、総務省働き方改革チームの取組(https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kanbo01_000124429.html,https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kanbo01_02000656.html)

総務省と情報化

行政の情報化については、総務省(当時は総務庁)が、平成7年に「行政情報化推進基本計画」を策定し、更にインターネットの普及等を背景に、「社会と行政の接点の情報化」、「行政部内の情報化」を柱として、行政効率化を推進してきました。このような経緯から、入口である行政への申請の電子化、それとは別に予算管理など内部管理事務を中心に行政部内の情報化が進められてきました。現在は、サービスを受ける必要が生じた時からサービスの提供後までの「エンドツーエンド」でシステム構築をすることを推進していますが、このように今は当たり前前に思えることも技術の進展とともに試行錯誤で

進めてきました。

総務省を目指す皆さんに伝えたいこと

現在、私は、クラウド(注2)サービスを活用したシステム構築の業務に携わっています。クラウドサービスは、自前でシステムを所有せず、使った分だけ使用料を支払う形となり、コスト削減に大きな効果がありますが、システム構築の仕方も、契約方法も、セキュリティの確認方法も、今までと全く違ったものとなります。日々の業務は大変なことも多いですが、新技術の導入、働き方改革、民間のビジネスモデルへの影響、自動化と人力のコストに対する国内外での認識の違いといった大きな視点で業務を俯瞰することで社会や世界とのつながりを実感できます。着任して2年半が経ち、ようやく「このプロジェクトが検討している領域の範囲ですごいですね」と共感いただけるようになってきました。そういったことが私には楽しく、やりがいを感じます。ICT技術を徹底活用した行政の実現は長丁場です

が、新たに総務省に来る皆さんと、一緒に作り上げる喜びをぜひ共有したいと思っています。

(注2)クラウドコンピューティングのこと。コンピュータによる情報処理を自分の手元のパソコンで行うのではなく、インターネットの向こう側にある、クラウドサービス事業者のコンピュータで行うサービス。



ICA (International Council for Information Technology in Government Administration)に出席。



船橋市芝山団地商店会「100円商店街」にて。船橋市では、新しい地域のあり方を試行錯誤で作ろうとする皆さんの強い想いを感じる機会に多く恵まれました。



若手職員の声



行政管理局行政情報システム企画課
情報システム管理室主査

和氣 祥太
(平成28年度入省)

私は、行政管理局の政府共通プラットフォーム等の担当として、担当施策をいかに政府方針に打ち込んでいくか、耳目を集める施策についてどのように対外的に説明を行っていくか、などについて素案の作成や調整等を行っています。自らメディア対応を行ったときには、自分が担当する仕事への責任を特に強く感じました。

黒田管理官に相談すると、ほんの数分の中で自分の検討の至らなかつた点に気づかされるなど、日々学びがあります。今後も、周囲からの学びを吸収して視野を広げ、行政官として成長していきたいと思っています。

PROJECT

政府共通プラットフォーム (クラウドサービスの活用)

総務省行政管理局では、各府省が共同で利用する情報システムや中小規模の情報システムを中心に投資対効果を踏まえて集約化し、セキュリティの向上や運用コストの低減を図るため、政府共通プラットフォーム(PF)を平成25年3月から運用しています。現在、令和2年の運用開始に向けて、クラウドサービスを活用した第2期PFを構築中です。

令和元年8月には、「政府共通プラットフォームの構築・活用推進及びクラウドサービスの利用検討」として政府重点プロジェクトの第1弾に指定され、政府のクラウドサービスの利用促進に向けて、その効果的な利用実績を作り、セキュリティ面、契約面の不安を払拭することが重要課題となっています。